

NISA・積立 NISA・イデコの比較

銀行預金の利息や、投資で得た利益には、一律約 20%の税金がかかります。この運用時の約 20%の税金を非課税とするのが、2014 年からスタートしている NISA や 2018 年にスタートした積立 NISA、iDeCo (個人型確定拠出年金)、企業型 DC(確定拠出年金)です。

拠出時に課税して運用時と給付時には非課税の「TEE型」の積立 NISA、NISA と、拠出時と運用時には非課税(Exempt)で給付時に課税(Tax)する「EET型」の個人型確定拠出年金(iDeCo)を比較してみましょう。

積立 NISA: 最大の特徴は積立スタイルの利用オンリーで、また積立期間が 20 年と長いので長期でコツコツ積み立てる制度です。1 年間で利用できる金額は 40 万円ですので、20 年間で総額は 800 万円まで OK です。20 年積み立てなくても NISA と同じようにいつでも現金化することができます。

デメリットは、NISA と同じように金融商品を購入した金額が上限になったらその年の枠は使い切ったと見なされます。そのため売却して枠が余った、ということにはなりません。投資商品は、初心者でも始めやすい長期投資向きの投資信託などに限られます。

NISA: 元祖 NISA のメリットは、個別の株式投資もできることです。積立 NISA と違って 1 年分の上限額を 1 回で投資することもできます。投資枠も年間 120 万円までと高額ですが、投資期間は 5 年間しか認められていません。ちなみに NISA と積立 NISA は 2 つ同時には利用できず、どちらか 1 つを選択する必要があります。

NISA のデメリットは、積立 NISA と同じように投資枠が「一度使うとそれで終わり」です。また、定期預金などの元本保証商品には投資できません。

iDeCo(イデコ): iDeCo も非課税制度の一つですが、元は「個人型確定拠出年金」と呼ばれ、老後資金のための個人年金制度になります。NISA や積立 NISA とは違って、原則 60 歳まで引き出すことができません。対象商品は、定期預金や保険商品などの元本確保型商品も利用可能ですし、投資信託ももちろん OK ですが、個別の株式には投資ができません。

		NISA	積立 NISA	イデコ
税制	拠出時	所得控除の適用ない		全額所得控除
	運用時	5 年間非課税	20 年間非課税	無期限で非課税
	払出し時	元本に課税されることはない		元本も含めて原則課税 (退職所得控除・公的年金控除の対象)
拠出限度額	年間	120 万円	40 万円	属性により 14.4 万円～81.6 万円
	累計	600 万円	800 万円	上限なし
払出しの制限		特になし		60 歳まで払い出し不可
非課税枠の管理		商品の購入額で管理されているため、スイッチングや分配金再投資は再購入扱いとなり非課税枠を消費		イデコへの拠出額で管理されているため、口座内でのスイッチングや分配金再投資は自由